



石原橋下の釣人 Fishing under the Ishihara bridge ...

© photo by Isao Yoshida

本年度の方針

第五十四代会長 和泉由起夫



昭和39年7月22日、入間ロータリークラブを親クラブとして36名のチャーターメンバーで船出され歴史と伝統そして功績ある飯能ロータリークラブ。2017～2018年度の会長を拝命いたしました。その責務を担うにあたって肩の荷が極めて重く感じるところでございます。

長くもあり短くもあるこれからの一年間クラブの運営の一翼を担うべく最善をつくす決意でございます。

どうぞ皆様の倍旧のご指導・ご支援を仰げますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、今年度の国際ロータリー会長の Ian Riseley (イアン ライズリー) 氏は、奉仕を通じて人びとの人生に変化をもたらせるとして、「ロータリー：変化をもたらす」をテーマに掲げられました。

その中で私達がロータリーに留まり続けるのは、「変化をもたらす」ことにより充実感を得ることができるからとも言っておられます。

また、国際ロータリー2570地区2017～2018年度ガバナー細井保雄氏は、新たなリーダーが就任するごとに方向性が変わる事を防ぐため2010年7月より確立したRI戦略計画3つの柱「クラブのサポートと強化」「人道的奉仕の重点化と増加」「公共のイメージと認知度の向上」を基本に地区運営にあたり「RI戦略計画をみんなで一緒に実行しよう!!」をテーマに掲げられました。

このように、ガバナーは理想的なクラブ作りを目指されておられます。

そして今、多くの社会活動団体の構成メンバーの数がじり貧しています。

飯能クラブも引き続き会員増強が大きな課題のひとつと云えましょう。

地区目標数として会員51人以上のクラブは純増2名を望んでいます。

先に述べたRI戦略計画を基に飯能クラブとして実践、実行力を優先して会員同士の親睦をさらに深め奨学生をはじめ、国際理解の推進、奉仕の理念を理解して職業的な倫理観を仕事に生かす四つのテストを真撃に言行していきたいと思えます。

自分自身と自分の職業(仕事)を磨き地域や国際社会に奉仕をする。

④人道的に奉仕する事により③世間に良いイメージを持ってもらう、この事により②仲間が増える。この3つをリンクしてサイクルがうまく回るようにクラブ活動を運営していきたいと思えます。

任期を終了して

第五十三代会長 小川 晃 男



人類に奉仕するロータリー (Rotary Serving Humanity) という John Germ RI 会長の掲げたテーマのもと、2570 地区の前嶋修身ガバナーの仰る「知恵と元気を」出してこの一年を過ごしてまいりました。私自身は「ロータリーを心で感じよう」と申しあげました。

ポールハリスから続くロータリークラブは世界の歴史の流れの中でその時々、自らを修正しながら成長を続けてきました。奉仕 (service) の概念も変化を遂げながら今に至っております。しかし奉仕の概念や定義が変わっても、変わらないものが一つあります。それは奉仕しようとするロータリアンの姿勢あるいは心です。ロータリアンがその心を忘れない限りロータリーの未来は明るいものだろうと私は思っています。心で感じようと申しあげたのは、奉仕の意味をより深く理解しようという気持ちからでした。一人ひとりの会員がロータリーをより深く心で感じてくだされば、当クラブは必ず発展していくと信じて、この一年を過ごしてまいりました。

さて、いま任期を終えるにあたり、なんとか次年度の和泉会長に襷をわたすことができたことを心から嬉しく思っています。ただ、ガバナー補佐を輩出し、地区委員を3名送りだし、米山奨学生と共に青少年交換留学生のホストクラブを引き受けることになりました。名誉なことではありますが、多忙な一年が予想されます。しかしこれも奉仕の一環だと快くお引き受けくださった和泉会長に深甚の謝意を表したいと思いますと共にできる限りの協力をさせていただくことを申し添えたく存じます。

末筆で恐縮ですが、この一年の活動の成果はすべての会員の皆さまの奉仕の積み重ねの結晶であり、皆様のご協力がなければ何一つうまく行かなかったことを思いここに厚く御礼を申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。一年間誠にありがとうございました。